

清瀬市郷土博物館協議会 令和2年度第1回議事録

日 時 令和2年11月27日（金）午前10時～正午

場 所 郷土博物館 講座室

出席者 委 員 岩本重雄、岡田耕輔、小俣洋子、富田公三、森本昇二、築瀬正子、
山我正明（敬称略）

事務局 坂田教育長、渡辺教育部長兼館長事務取扱、金子事業係長、
古川主査（学芸員）

会議の公開・非公開 原則公開

傍聴者 なし

配布資料 資料1 令和2年度事業報告

資料2 令和2年度事業予定

資料3 令和3年度事業計画（案）

特別展「下宿内山遺跡展」チラシ・図録

特別展「絵本原画にみる横内襄展」図録

議 事 1 開会

2 教育長挨拶

3 議題

(1) 令和2年度事業執行状況報告について

(2) 令和2年度事業予定及び令和3年度事業計画（案）について

(3) 令和3年4月1日からの組織改正について（報告）

4 その他

5 閉会

6 視察 特別展「下宿内山遺跡展」

【議事要旨】

1. 開会

本協議会の司会進行役は議題に入るまで渡辺部長兼館長事務取扱が務める。

2. 教育長挨拶

坂田教育長より挨拶。

（教育長）コロナがなかなか収まらない。小学校でも濃厚接触者が出て学校を閉じざるを得ない事態が発生した。既に休校措置は解かれている。学校でも

最大限の対策を行っているが、家庭内での感染のケースが増えているようだ。一刻も早く終息を迎えてほしい。子供の学びが保証できなくなっている状況である。そのような中でも、博物館においてはいくつかの事業を開催した。まず「絵本原画にみる横内襄展」は1,200人程度の来場があり、私も見せてもらったが、非常にすばらしい作品の数々だった。また「リマスターアートで見るオルセー美術館印象派の名画展」では、2,000人程の来場があった。一つの学年を連れてきて鑑賞したという学校もあった。今開催中の「下宿内山遺跡展」では、子供たちの発掘体験の募集をしたが、あっという間に定員となった。いずれも学校のお昼の放送でPRをした。その影響もあったと思われる。前々から博物館と学校との連携をいうことで、副会長がずっとおっしゃっていたが、そこは一步步近づいていっているような印象である。今日はいくつか議題があるが、是非活発なご議論をいただければとお願い申し上げます。

教育長、公務の都合により退席。

ここで、事務局により配布資料と本日の会議の出席者数の確認があり、本日の会議出席者は、委員7名のうち、全員が出席していることから、条例第5条第5項の定足数である過半数を満たしており、本会は成立している旨が伝えられた。

3. 議事（協議経過等）

(1) 令和2年度事業執行状況報告について

(2) 令和2年度事業予定及び令和3年度事業計画（案）について

これより議事進行は岡田会長により執り行われた。

事務局より上記について資料に基づき報告。

(事務局) 令和2年度事業報告及び事業予定並びに令和3年度事業計画案は、一括して説明する。コロナ感染予防の関連で、3月6日から5月26日まで臨時休館となった。今年度の重点事業でもある特別展については、7～8月に「絵本原画にみる横内襄展」、10月に市制施行50周年記念の「リマスターアートで見るオルセー美術館印象派の名画展」、現在開催中の「下宿内山遺跡展」の計3件を実施している。

伝承事業は一部中止し、ミュージアムコンサートも密になる恐れがあるため、今年度は全て中止とした。その他の事業は感染症対策を講じながら再開している。12月以降の事業計画についても「第1回きよせ郷土カルタ大会」をはじめ引き続き感染症対策を講じながら可能な限り実施する予定である。

令和3年度の事業計画案については、予算がついた場合のものになるが、

老朽化したギャラリーの全面改修工事を予定しており、同時に常設展示室のリニューアルも計画している。特別展についてはギャラリー改修前に3回行う。その他の事業も例年通りの開催を計画しているが、コロナの状況を見ながら実施していくことになる。

(会 長) このことについて、質問・意見等はあるか。

(委 員) コロナ感染症対策、大変だったと思う。ご苦労お察し申し上げます。事業計画については恐らくコロナが改善されたらの話だと推察するが、私見だがコロナは今後も厳しいと思う。その場合の対策もある程度組み込まれての事業案と思いながらお聞きした。

(委 員) 来年度の映画会は上映する作品は決まっているのか。

(事務局) 現在は選定段階である。

(委 員) どういう映画か分かっていると興味があつて来る方もいると思う。コロナが早く収束して、みんなが普通の触れ合いができるようになればと思う。一番このようなイベントが影響出ている。イベント関係の参加が全くできない状況になっている。人を集めて何かするということができない、そのような中での運営であるから、気遣いがあつて大変だと思うがその時期に応じて運営していつてもらえればと思う。

(事務局) ご質問あつた映画会については、これまで16mmフィルムを都立多摩図書館から無料で借用して上映していたが、DVDの上映に切り替えると上映権の問題で買い取りという形になるので、予算がついた後に具体的に作品を検討することになる。

(委 員) 令和3年度の特別展で「浮世絵展」とあるが、清瀬市が所蔵しているもので開催するのか。

(事務局) これについては、山梨県立博物館所蔵の葛飾北斎と安藤広重の浮世絵のリマスターアートによるものである。オルセー展と同様に観覧料を徴収しての開催となると思う。

(委 員) コロナの中での事業、大変だったと思う。立派な特別展もやられて素晴らしいと思う。開催中の「下宿内山遺跡展」では、時代の移り変わりを表示したり、図などで遺跡を見られたりするというのは興味深いし良いと思う。「横内襄展」の横内さんが清瀬在住と知らなかった。展示を見ることはできなかったが、現在「清瀬市みどりの基本計画」の制定を行っているが、その中に人と生き物が共生する「多様性保全」という問題が新たに加わってきており、この図録を拝見すると自然が描かれており、見られなくて残念だった。多様性保全ということで自然との共生が叫ばれている今日、そのような面でも大変良かったと思う。以前、博物館で「清瀬の野鳥展」「清瀬の昆虫写真展」などを開催している。かなり前にの話になり状況もかなり変化したので、そろそろ同様の展示の開催も良いと思う。是非検討いただきたい。

浮世絵の特別展は、いつの時代のものなのか。

(事務局) 葛飾北斎の「富嶽三十六景」と安藤広重の「東海道五十三次」の浮世絵の復元版画である。

(委員) 鉄道展は今ブームになっており、興味を引く方が多いと思うので、良いと思う。

(事務局) 特別展に関しては、3～5年計画で実施しているものなのですぐには実現できないが、ご意見いただければ、その中で検討していきたい。

(委員) コロナでいろいろ中止になったが、段々とコロナと共存していかなくては仕方ないということでもいろいろ始めたところが増えてきたので、それは嬉しく思う。来年は柏餅作りができれば良いと思っている。

(副会長) 教育長からお話があったが、学校のお昼の時間に博物館の催し物の紹介をしたとのこと、大変良かったと思う。ただこのコロナ禍の中、子供たちに「行って」というのも先生方も辛いと思うが、博物館が日頃頑張っているのをどのような形でも良いので市民に伝えていって、市民の方が「博物館へ行ったらこれがある、分かる、見られる、だから見に行こうよ」ということにつながっていくと、博物館の皆さんもやったかいがあったと思うだろうし、期待をしているところである。コロナの関係で来館者状況はやはり今までとは違う感じか。

(事務局) やはり減少傾向である。臨時休館があった関係もある。

(副会長) 横内さんの作品は素敵な作品が多く私もファンだが、子供たちに見てもらいたい作品がたくさんあるので、また是非企画展に組み込んでもらって、子供たちに「すごい、こんな風に描いてみたい」と思ってもらえると良いと思う。

(副会長) 浮世絵展のときに、昔のことを取り上げるため、その時でなくてもよいがうちおりの展示を廊下でもどこでもよいので一角ではどうか。

(事務局) うちおりについては、国指定文化財のため保存の関係上、専用の展示ケースが必要であり、その予算要求をしているところである。予算がつけば常設展示室で展示できるよう計画している。

(副会長) うちおりの展示だけでなく、子供たちが体験して学べるようなことができるより親近感がわくのではないかと思う。

(会長) オルセー展は私も見させてもらったが、素晴らしく、このような展示を清瀬で見ってもらうことでより博物館に関心を持ってもらうことにつながると思った。その割には参加者が少ないというのは、コロナの影響があると思うが、特別展などを開催して博物館に足を運んでもらう機会をこれからも作っていってもらえたらと思う。来年度の浮世絵展や鉄道展、期待をしている。

(3) 令和3年4月1日からの組織改正について (報告)

- (事務局) 令和3年5月に新庁舎での執務開始に伴い、同年4月1日付で組織改編が行われることとなった。これにより、郷土博物館はこれまで教育委員会の所管だったが、市長部局に移り企画部郷土博物館事業係となる予定である。移管はされても、博物館の方針や事業計画がすぐに何か変わるということはない。しかし、今までの所管ではできなかった観光・地域振興・まちづくり等の分野と一体的な活用が可能となり、企画部が重点を置いているシティプロモーションの強化や地域コミュニティの発展により一層貢献できるものと思われる。
- (会長) これについて、質問等はあるか。
- (委員) 口頭で説明だけでは分からない。資料等目に見えるものを提示してほしい。不明な点が多過ぎる。
- (事務局) こちらも企画部からの資料提供が少なく、具体的な内容となる資料はない状況である。改編後の組織図案程度しか出されていない。
- (部長) やはり何か資料をご提示できれば良かったと思う。一口で言うと、今「教育委員会教育部郷土博物館」となっているが、「企画部郷土博物館」と部局が変わることとなる。これは市史編さん室が企画部にあって、郷土博物館は教育部にある、これを同じ部内で進めていった方が良いのではということで、博物館が企画部に移るという流れである。
- (委員) 今まで、教育部で教育長が言ってきたこととどうつながるのか、教育とのつながりをどう持たせていくのか。今までと同じと言っても、違うことがやはり出てくると思うので、これまで協議会で重ねて討論してきたことなどがどう活かされるのか、気になるところである。
- (部長) 教育委員会から市長部局に移るとするのは非常に大きな移動である。委員がおっしゃったとおり、教育長の理念であるとか、教育のマスタープランの中で郷土博物館が位置づけられたものはどうなるのかということで、いろいろご心配をおかけしているが、博物館には教育的側面があるため、市長部局に行ったからと言って、教育のマスタープランの中から博物館がなくなるということはまずない。ただ市の大きな総合計画の中にもきちんと位置付けられることにもなるが、教育委員会でなくなったからと言って、教育から外れるということではないことはご承知おきいただきたい。
- (委員) それはよく分かる。実際に動くのは人であるから、人材の流れだとか、不明確になる恐れがあるのではないかと感じている。
- (事務局) 平成30年に文化財保護法と博物館法等、教育に関する法令の一部改正が行われ、教育関係の図書館や博物館が首長部局に移ることが可能となったことも背景にある。よって、条例関係の改正も含めて今回の組織改編は行われる。
- (委員) 教育長が市内の小中学生の学校教育において、博物館を使っていきたい

とおっしゃっていたので、それがどうなっていくのかと思っている。また今、教育部長が館長兼務でいらっしゃるが、予算の関係も含め決まっていなくても多いと思うが、移管後は専任の館長がいらっしゃるのかどうか。

(部長) 人材や館長についてご心配いただいているところだが、おそらくはきちんと館長を張り付けてくれるはずだと思っている。企画部内での兼務の館長は現実的ではないと思う。博物館の係としての定数は確保しながらも、専任の館長を置いていただければ、博物館にとって悪い話ではないのではと思っている。

(会長) 私は清瀬市史編さん委員会にも参加しているが、郷土博物館長がほとんど出席することがなかったのは残念だった。館長不在という事情があるとはいえ清瀬市の歴史文化に関わることなので代行者でも出席してほしかった。そういう意味では企画部に統一されて、市史編さん室と一緒にやるということについては良いと思う。また先ほど委員がおっしゃったように今後方針がどうなるのか、館長はどうなるのかなどについても協議会にもお知らせいただきたい。

(副会長) 組織が改正されると、私たち協議会の在り方もまた方向性が変わって来るのかと思うがどうか。

(事務局) できる事業の幅は広がると思うが、具体的なことはこれからとなる。

4. その他

(会長) その他についてだが、最初に私からの提案事項を申し上げる。他市でも事例がある「市民学芸員」「子供学芸員」の養成について、郷土博物館でも実施の検討をされたらどうか、現時点での郷土博物館としての方針や計画があれば伺いたい。

(部長) 只今ご説明あったとおり、今年の7月に「子供学芸員と市民学芸員認定者が清瀬のまちを案内」というご提案を会長からいただいた。博物館の新事業として、「市民学芸員」と「子供学芸員」の養成研修会を実施し、認定された方が清瀬のまちを案内するといったような内容である。この立案に従って、私が学芸員とも話をし、あくまでもたたき台だが、ある年度までにここまでできれば良いのではと構想を練らせていただいた。まずは一般向けの「市民学芸員」の養成講座の構築後、養成が確立し、その検証を経て、子供向けに広げていければという流れで構想を考えている。

(会長) このことについて、質問・意見等はあるか。

(委員) これもそうなのだが、言葉だけでの説明では頭に残らない。目に見える資料がなければなかなか協議にならないと思う。予算的な問題は大丈夫なのか。また、「子供学芸員」はなかなか難しいと思う。子供が本当に好

きかどうかというのものもあるし、好きな分野も千差万別である。やっていく時にそれをどう運営していくか難しいかなと思う。時間もかかるだろう。子供もいろいろ忙しく、子供のためにやっても集まらないのが現状なので、そのようなことも考慮しながら進めていかなければならないと思う。

(会 長) 「子供学芸員」というのは、東村山市で実施している。以前教育長と話した時にそういうのを清瀬市でもできないかという話があった。私も小学生が非常に忙しいというのを聞いているが、子供も清瀬市の文化歴史を勉強することによって、まちや展示を案内できるというのを清瀬でできれば良いのではと思って、提案させていただいた。前例がある東村山を紹介したが、具体的にどういったことができるかはこれからの問題だと思う。

(部 長) 資料が用意できなかったのは申し訳ない。あくまでも構想のたたき台ということで現時点での資料の配付は控えさせていただいた。予算については、外部講師に頼らない前提であれば、ほとんどかからないのではと思っている。内部の学芸員がメインとなって研修を行うといったことであれば、資料代も消耗品くらいで大きなお金はかからない事業と認識している。また委員がおっしゃったとおり、現代のお子さんは非常に忙しいであるとか、子供によって興味の対象は異なると思う。そのため「子供学芸員」については時間がかかると言ったのは、そうしたいくつかのメニューを用意しないと、子供の確保が難しい、学芸員という広い分野で一括りだとなかなか参加していただけないのかなど。子供たちが興味を引くような分野を絞り込んで、それに対しての研修講座を設けなければならないと思っている。

(委 員) 何でも子供たちに任せるのは私は止めた方が良いと思う。意味は分かるが、何でも子供たちを活用するというのはどうだろうか。では誰が人材として時間があるのかというと、人口的な割合からしても高齢者だと思う。そこをうまく活用しながら子供の方に向けるというのが動きとしては良いのではと思う。

(会 長) 「市民学芸員」のことについてはいかがか。

(委 員) 私は良いと思う。清瀬だけでなく関東一円で個人的にまち歩きをしているが、そのまちの人に聞いても、自分の住んでいる地域の歴史やいわれをほとんどの人が分からないことが多い。こういう世の中になってしまったのかなとも思うが、そこの子供たちが親から引き継がれなかったり学校も全く教えなかったりで、分からないまま過ごしてしまうと、最終的には郷土愛の希薄化などにつながってくると前から思っている。そのような制度ができると良いと思う。私たちも自然を守る会の活動内容や地域の自然などについて、学校の環境教育も含め、説明してほしいとい

う依頼がたびたびある。そのような依頼は清瀬の PR も兼ねてなるべく受けるようにしているので、何かそういったことが説明できる人がいると良いと思う。

(委員) 「市民学芸員」という名前は堅苦しいかもしれない。市民が集まるかどうかはともかく、このような場があるんだ、それに賛同や興味が沸く人が少しでも増えてもらえればと思う。今後、このような事業を地道に続けていって、予算も清瀬の財政は厳しくせつかく良いものをやろうとしてもなかなか実現できないと良く聞くので、なるべく予算をかけないでやるのが知恵なのかなと。では具体的に何をやるかというのは皆さんで確認しながら進めていくことになると思う。

(委員) 「市民学芸員」という発想は非常に良いと思う。実際にやっている市もあるし、具体的なところはこれからだと思うが、発想そのものには賛成する。ただ、手間暇がかかるので担当する職員が負担になるので、どのように進めていくかというのを検討するのは時間が必要ではないかと思う。

(会長) 中高年の方にお手伝いいただくという発想でやっていけば、数年後にはいろいろ活動していただけるのではと思う。

(委員) 結局、勉強していかななくてはならないので、それをやってくださる方、教わるのも大変だ。

(会長) 研修講座を学芸員にやってもらえれば、あまり経費はかからないということであるし、知識・経験も豊富なのでいいと思う。中高年の方も参加していただく、生きがいを見つけていくということになると、養成講座みたいなものに参加する方は結構いらっしゃるのではないかと思う。

(委員) 高齢者は時間があるだろうが、若い人は仕事で忙しそうだが。

(会長) 勉強していけば市民学芸員として、いろいろ活動ができると思う。今のご意見では、概ね「市民学芸員」制度は良いが「子供学芸員」制度はなかなか難しそうだという声が多いようだ。

(委員) 何をやるにしても時間がかかると思う。5～6年でできることではないと思う。「子供学芸員」という目標としては良いと思うが息の長いことなので積み重ねが必要だと思う。

(会長) 時間がかかってもやっていくことができればと思う。

(委員) ただ、その間に人が入れ替わったりということがあるため、その時は実際に約束しても、いつの間にか消えてしまっているということにならないか心配だ。

(会長) やり方を考えていけば長く続けていくことは可能ではないかと思う。

(副会長) 委員の話で「学芸員」という名前が堅苦しいというのがあったので「案内人」というのはどうだろうかと思った。大人が説明している中で、この部分は子供が説明して、といったように養成していくと、子供も積極

的に参加して説明することができるのではないか、とお話を伺いながら思った。

- (委員) 昆虫観察に子供を連れて行った時に、大人よりも昆虫を知っている子供がいる。その詳しい子供は、実際に副会長がおっしゃったようなことをやっている。
- (委員) 他の地域の方に、清瀬には富士講のすごいのがあるんですね、と言われると、自分も詳しく分からないこともあるので、そのような時に少し紹介してくれる方がいれば。個人だけでなく団体でも詳しい方がいらっしゃると思うので、そのような方たちを活用できれば良い。一人の人が全て案内できる訳ではないし、そうはいかないだろうから、いろいろな方法でできればと思う。
- (会長) これらの委員の意見を参考に計画していただければ良いと思うので、よろしく願いしたい。これで議題は以上だが、他にも意見等あるか。
- (委員) 去年の協議会で挙げられた重点事業計画において、具現化されたものの一つで今「下宿内山遺跡展」が開催されているが、担当者もここまで大変だったと思うが御礼を申し上げたい。

5. 閉 会

- (会長) 以上で本日予定していた議事についてはすべて終了する。これをもって本日の博物館協議会を閉会する。

6. 特別展「下宿内山遺跡展」視察

閉会后、中野学芸員の案内で特別展「下宿内山遺跡展」を視察。